

グリーンボンド / グリーンボンド・プログラム 外部レビューフォーム

セクション1. 基本情報

| | |
|-------------------------|-----------------|
| 発行体名: | ミネバアミツミ株式会社 |
| グリーンボンド又は フレームワークの名称 | グリーンボンド・フレームワーク |
| 外部レビュー者名: | 株式会社 日本格付研究所 |
| 本フォーム記入日: | 2022年5月11日 |
| レビュー公表日: | 2022年5月11日 |

セクション 2. レビューの概要

レビュー対象

本レビューでは、以下の要素について審査し、グリーンボンド原則との適合性を確認した。:

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 資金使途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価と選定プロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 資金管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング |

ROLE(S) OF Independent External REVIEW PROVIDER

- | | |
|------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> セカンドオピニオン | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証 | <input checked="" type="checkbox"/> スコアリング/格付け |
| <input type="checkbox"/> その他: | |

注:複数のレビュー、異なる提供者がいる場合、レビューごとに個別のレビューフォームを提供してください。

レビューのサマリー 及び 評価レポート全文へのURLリンク

ミネベアミツミ株式会社（ミネベアミツミ）は1951年設立の幅広い製品をグローバルで展開する総合精密部品メーカーである。2017年に電子部品大手のミツミ電機を完全子会社化し、「ミネベア」から「ミネベアミツミ」に商号変更した。超精密機械加工技術や大量生産技術をはじめとするコア技術を生かし、8つのコア事業と3つのサブコア事業を手掛け、ニッチ分野を中心に多角化を図っている。なお、ミネベアミツミは、自社保有技術を融合、活用してコア事業を進化させるとともに、その進化した製品をさらに相合することでさまざまな分野で新たな製品を創出する、という意味を含めて、自社のことを、「総合」ではなく、「相い合わせる」ことを意味する、「相合（そうごう）」精密部品メーカーと称している。

主力の機械加工品事業では、ミニチュアボールベアリング、HDD用ピボットアッセンブリーで世界シェアの過半を占め、航空機用ロッドエンド・ファスナーでも高いシェアを有する。電子機器事業ではモーター、LEDバックライト、計測機器などを扱う。ミツミ事業は、スマートフォン向け光デバイス、ゲーム機向け機構部品、アナログ半導体などを主力とする。ユーシン事業は19年に買収した自動車部品メーカーのユーシンを主体とする。ミニチュアボールベアリングやモーター、アナログ半導体などコア事業に定義される製品群は、技術革新があっても容易に置き換わることがなく、収益基盤が安定している。現在、製品の製造・販売において、国内に加え、中国、タイ、フィリピン、マレーシア、カンボジア、韓国、シンガポールなどのアジア、米国、欧州の各国にてグローバルに事業を展開している。

ミネベアミツミは、「より良品を、より早く、より多く、より安く、より賢くつくることで持続可能かつ地球にやさしく豊かな社会の実現に貢献する」を経営理念とし、経営上の重要課題（マテリアリティ）にも、「地球環境課題解決への貢献」を設定している。同理念のもと、「QCDESS：Quality, Cost, Delivery, Eco/Efficiency, Service, Speed」を戦略の基盤として掲げている。品質・価格・納期・サービスだけでなく、環境への配慮・効率性を徹底した製品の開発・製造・販売を経営戦略の中心に置くことで、企業活動そのものを通して地球環境改善に貢献したいと考えている。さらに、環境目標として、製品によるCO2排出削減貢献量2020年度対比30%増加（約230万t-CO2、2030年度目標）、グリーンプロダクツの売上高比率90%以上（2028年度目標）、自社のCO2排出量2020年度対比30%削減（2030年度目標）を設定している。

ミネベアミツミでは、サステナビリティ推進部門が主体となってサステナビリティに関する取り組みを推進しており、CO2の排出削減量の算定などはサステナビリティ推進部門に属するグループ環境管理室が行っている。また、部門に属さない会議体として、Carbon Neutral Steering Committee（CNSC）、環境マネジメント委員会、リスク管理委員会が設定されている。また、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）提言へ賛同しているほか、「CDP気候変動2021」および「CDPウォーターセキュリティ2021」において、どちらも「A-」の評価を得ている。社内の環境マネジメントについては、ISO14001の外部審査による認証を受けている。以上より、専門的知見を有する社内外の専門家がサステナビリティに関する取り組みに関与している。

今般の評価対象は、ミネベアミツミが環境目標の達成に資する施策のうち、省電力に資する高品質ベアリング、革新的精度向上ベアリングの生産や研究開発に係る費用、EV主機モーター用ベアリングの生産や研究開発に係る費用、自社のCO2排出削減を推進するため、自社の事業活動にて利用する電力をクリーンエネルギーへ転換するための設備投資または電力購入に係る費用に対する資金充当を目的として設定したグリーンボンド・フレームワーク（本フレームワーク）である。JCRは、ミネベアミツミが本フレームワークで定めた適格基準は、いずれも地球・社会のサステナビリティに大きく貢献するものであると評価している。また、プロジェクトの選定プロセス、資金管理体制および発行後レポート体制等についても適切に構築され、透明性が高いと評価している。

この結果、本フレームワークについて、JCRグリーンファイナンス評価手法に基づき、「グリーン性評価（資金使途）」を“g1(F)」、「管理・運営・透明性評価」を“m1(F)”とした。この結果、「JCRグリーンボンド・フレームワーク評価（総合評価）」を“Green 1(F)”とした。評価結果は次章にて詳述する。また、本フレームワークは「グリーンボンド原則」および「グリーンボンドガイドライン」において求められる項目について基準を満たしているとJCRは評価している。

評価レポート全文へのURLリンクは以下をご参照。

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>

セクション 3. レビューの詳細

レビュー者は、できる限り以下の情報を、コメントの枠を使用し、できる限り提供することが推奨される。

1. 資金使途

本項目に係るコメント欄：

a. プロジェクトの環境改善効果について

- i. 資金使途として本フレームワークで掲げられた適格クライテリアは以下を対象とするものであり、環境改善効果が期待される。

A分類：ボールベアリングの生産および研究開発

A-1…省電力に資する高品質ベアリング、革新的精度向上ベアリングの生産や研究開発に係る費用

A-2…EV主機モーター用ベアリングの生産や研究開発に係る費用

B分類：脱炭素電源調達

…自社のCO2排出削減を推進するため、自社の事業活動にて利用する電力をクリーンエネルギーへ転換するための設備投資または電力購入に係る費用

- ii. 資金使途は下記の通り該当する。

A-1…グリーンボンド原則：「高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術およびプロセス」、グリーンボンドガイドライン：「環境配慮製品、環境に配慮した製造技術・プロセスに関する事業」

A-2…グリーンボンド原則：「クリーンな運輸」、グリーンボンドガイドライン：「クリーンな運輸に関する事業」

B…グリーンボンド原則：「再生可能エネルギー」、グリーンボンドガイドライン：「再生可能エネルギーに関する事業」

b. 環境に対する負の影響について

ミネベアミツミは、すべての適格候補事業は、環境・社会的リスク低減のために以下について対応していることを確認することをフレームワークにて明記している。

・事業所在地の国・地方自治体にて求められる環境関連法令等の遵守

・事業所在地の国・地方自治体にて求められる工場・製造設備の建設・導入や太陽光発電等施設の建設・運営に関する安全面に関する法令等の遵守

・事業の実施にあたり地域住民への十分な説明の実施

ミネベアミツミの製造設備は電化したものがほとんどであり、製造に伴う大気への環境負荷は小さい。また、エネルギー効率の高い設備やプロセスの採用により、工場からの廃棄物、排水が最小限となるよう、規制にて求められる水準を上回る取り組みを実施している。

したがって、本フレームワークで定める資金使途について、ミネベアミツミが適切に環境リスクを特定し、回避および緩和策を講じていると考えられる。

GBPにおける資金使途の分類:

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 再生可能エネルギー | <input type="checkbox"/> エネルギー効率 |
| <input type="checkbox"/> 汚染防止及び管理 | <input type="checkbox"/> 生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管理 |
| <input type="checkbox"/> 陸上及び水生生物の多様性の保全 | <input checked="" type="checkbox"/> クリーン輸送 |
| <input type="checkbox"/> 持続可能な水資源および廃水管理 | <input type="checkbox"/> 気候変動への対応 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術及びプロセス | <input type="checkbox"/> グリーンビルディング |
| <input type="checkbox"/> 発行時点では明らかでなかったが、現時点においてGBP分類に該当することが予想される、または、まだGBP分類に含まれていないが適格グリーンプロジェクト分野と思われるもの | <input type="checkbox"/> その他 |

GBP以外のタクソミー(プロジェクト分類)を使用している場合はそれを特定すること。:

2. プロジェクトの評価と選定プロセス

本項目に係るコメント欄:

ミネバアミツミは資金使途について、明確な環境面での目標、プロジェクトの選定基準およびプロセスを定めている。当該事項は、JCRによる評価レポートの中で開示されている。

評価と選定

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 発行体の環境面での持続可能性に係る目標が定められている | <input checked="" type="checkbox"/> 対象事業が選定基準分類に適合していることを決定するプロセスが文書化されている |
| <input checked="" type="checkbox"/> グリーンボンドの資金使途としての適格プロジェクト基準が定義され、透明性が確保されている | <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施に伴うESGリスクの可能性が特定され、管理されるプロセスが文書化されている |
| <input checked="" type="checkbox"/> 事業の評価と選定基準の概要が公表されている | <input type="checkbox"/> その他 |

責任及びアカウンタビリティに係る情報

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 評価・選定基準は外部からのアドバイスマたは検証を受けている | <input checked="" type="checkbox"/> 社内で評価している |
| <input type="checkbox"/> その他 | |

3. 調達資金の管理

本項目に係るコメント欄：

ミネベアアミツミは、全ての事業において、リファイナンスの場合はグリーンボンドの発行時から2年以内に実施、稼働開始された事業を対象とし、新規ファイナンスの場合の充当は債券発行から3年以内に完了する予定である。また、調達から充当までの期間は現金または現金同等物によって管理する予定である。調達資金の資金管理は、資金の管理・運用にあたっては財務部及び各地の経理部が担当し、財務部が自社開発した会計管理システムを用いて、定期的に追跡、管理する。東京本部長より資金管理について最終承認を受ける。

調達資金の追跡管理：

- グリーンボンドの調達資金は分別管理され、または適切な方法で発行体によって追跡管理されている。
- 未充当資金の一時的運用方法について、開示されている。
- その他

追加開示事項：

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 新規投資への充当のみ | <input checked="" type="checkbox"/> 既存・新規投資両方への充当 |
| <input type="checkbox"/> 個別の支出に充当 | <input type="checkbox"/> ポートフォリオベースの支出に充当 |
| <input type="checkbox"/> 未充当資金のポートフォリオバランスを開示 | <input type="checkbox"/> その他 |

4. レポーティング

本項目に係るコメント欄：

a. 資金の充当状況に係るレポーティング

ミネベアミツミは、グリーンボンドによる調達資金の充当状況について、調達資金が全額充当されるまでの間、年次にてウェブサイト、統合報告書のいずれかまたは両方で開示する予定である。充当対象について、売却や価値の著しい毀損といった大きな状況の変化が発生し、未充当資金が発生した場合は、適時資金充当状況に関する開示を行う予定である。

b. 環境改善効果に係るレポーティング

ミネベアミツミは、環境改善効果について、具体的かつ定量的なデータを含む内容を年次にてウェブサイト、統合報告書のいずれかまたは両方で開示する予定である。

資金使途のレポーティング：

個別プロジェクト・ベース

プロジェクトのポートフォリオ・ベース

個別債券への紐づけ

その他

レポーティング情報：

充当金額

投資額に占めるグリーンボンドによる資金充当の割合

その他：

頻度：

年に一度

半年に一度

その他：

インパクトレポーティング：

個別プロジェクト・ベース

プロジェクトのポートフォリオ・ベース

個別債券への紐づけ

その他

頻度：

年に一度

半年に一度

その他：

レポート情報（理論値または実績値）：

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> GHG 排出量 / 削減量 | <input type="checkbox"/> エネルギー削減量 |
| <input type="checkbox"/> 水使用削減量 | <input checked="" type="checkbox"/> その他ESG指標 環境認証の取得状況 |

開示方法

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 財務諸表における公表 | <input type="checkbox"/> サステナビリティレポートにおける公表 |
| <input type="checkbox"/> アドホック（非定期）刊行物における公表 | <input checked="" type="checkbox"/> その他： ウェブサイト、統合報告書のいずれかまたは両 |
| <input type="checkbox"/> レポートの外部レビュー | |

有用なリンク

| | |
|---------------------------------|---|
| ミネベアミツ Webサイト サステナビリティへの取り組み | https://www.minebeamitsumi.com/csr/ |
| JCRのグリーンファイナンス評価手法 | https://www.jcr.co.jp/greenfinance/ |

外部レビューを受けた場合、その種類

- | | |
|-------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> セカンド・オピニオン | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証 | <input checked="" type="checkbox"/> スコアリング/格付け |
| <input type="checkbox"/> その他: | |

レビュー提供者： 株式会社 日本格付研究所

公表日： 2022年5月11日

グリーンボンド原則に定められた、独立レビュー業者の役割

- 1. セカンド・パーティ・オピニオン：** 環境に関する専門知識を持ち、発行体から独立した機関は、セカンド・パーティ・オピニオンを出すことができる。そのような機関は、グリーンボンドフレームワークに関する発行体のアドバイザーからの独立性や、情報障壁など適切な手順を機関内に設け、セカンド・パーティ・オピニオンの独立性を保証することが必要である。セカンド・パーティ・オピニオンは通常グリーンボンド原則への準拠に関する評価を伴い、特に、発行体の包括的な目標、戦略、環境に関する持続可能性に関する方針および（または）プロセスおよび資金使途となるプロジェクトの環境に関する持続可能性の評価が含まれる。
- 2. 検証：** 発行体は、ビジネスプロセスに関するおよび（または）環境基準についての設定された基準に関する第三者検証を受けることができる。検証は内部または外部基準または発行体による目標に沿っているかにフォーカスする。また、対象資産の環境に関する持続可能な特徴の評価は"検証"と呼ばれ、外部基準を参照することができる。発行体の資金管理、グリーンボンドによる調達資金の配分に関する内部追跡システム、環境へのインパクトまたは、グリーンボンド原則への準拠に関する保証または証明も"検証"と呼ぶことができる。
- 3. 認証：** 発行体は、グリーンボンドフレームワークに関連したグリーンボンドまたは資金使途は、認識されている外部グリーン標準・ラベルの認証を受けることができる。標準またはラベルは、特定の基準を定義し、その定義は認証基準に沿っているかを証明できる能力を有し、認定された第三者機関によって、その基準に沿っているかどうかを検査される。
- 4. グリーンボンドスコアリング・レーティング：** 発行体は、グリーンボンドフレームワークに関連したグリーンボンドまたは資金使途は、スコアリング・レーティング手法を有している専門調査会社や格付機関といった第三者によって評価もしくは調査されることができる。成果物は、環境改善のデータ、グリーンボンド原則に準じたプロセスまたはその他2度目標などのベンチマークにフォーカスしたものが考えられる。スコアリング・レーティングは、重要な環境リスクを反映しているとしても信用格付とは明確に異なる。